

子育て支援ニーズ調査 結果報告

1 全体のまとめ

- ・ 前回調査と比べて特に就学前児童で子育て（教育を含む）に父母ともに関わっている家庭が多く、育児休業の取得率も父母ともに上昇している。若い世帯を中心に子育てに対する意識・環境が変化していることがわかる。
- ・ 前回調査と比べて、就学前児童の母親はフルタイムで働いている人が多く、また小学生の保護者母親もほとんどがフルタイムまたはパートタイムで働いている。それに伴い、幼稚園の利用希望は減り、保育園の利用希望が増えており、保育ニーズがますます高まっている。
- ・ 就学前児童の保護者は半数近くが市在住歴5年未満であり、「いこいこ」も十分に利用されていない中で、西東京市に土地勘のない子育て世帯へどう支援を届けるか、情報を届けるかという点は課題である。特に、地域の子育て支援拠点事業は満足度が9割程度にも関わらず、利用率と今後の利用希望率が低い点は課題である。
- ・ 就学前児童の保護者は、小学校入学後に学童クラブを使わせたいと考えている人が多く、実際に小学校低学年の保護者は学童クラブに通わせている人が多い。一方で、小学生の保護者が放課後に通わせたいと考えているのは、習い事が多い。
- ・ 理想の子ども数として最も多いのは「2名」である。理想の子ども数を「3名」と考える人のうち、現実には持てる子ども数を「3名」と回答しているのは約半数である。理想と現実の乖離が発生している理由で最も多いのは金銭的負担である。（「子育てにかかる経済的な負担を感じる」と回答している割合が就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに高いことから推測される）。

2 子育て支援ニーズ調査結果の傾向

- ・ 子育て（教育を含む）について、就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに前回調査よりも「父母ともに」が増え、「主に母親」が減っている。
- ・ 就学前児童の保護者は、市在住歴5年未満の家庭が前回調査よりも増え、半数近くになっている。
- ・ 母親の就労状況について、就学前児童の保護者は前回調査よりも「フルタイムで就労」が増え、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が減っている。小学生の保護者は、「フルタイムで就労」「パート・アルバイト等で就労」が同じ割合で、就労していない母親の半数以上が、すぐにも、または1年以内の就労を希望している。就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに「父母ともにフルタイム共働き」の割合が増えている。
- ・ 母親・父親ともに育児休業の取得率が上がっており、特に父親は4倍近く上がっている。
- ・ 定期的な教育・保育の事業の利用割合が前回調査よりも上がっている。最も利用している事業は認可保育所で、次いで幼稚園だが、認可保育所の利用率が上がり、幼稚園が下がっているため、1位と2位の差が大きくなった。定期的に利用したい教育・保育事業については、前回調査時は幼稚園が最も多く、次いで認可保育所だったが、今回の調査では逆転し、認可保育所が最も多かった。
- ・ 子育て支援アプリ「いこいこ」について、就学前児童の保護者は約6割が知っているが、利用しているのは約3割だった。小学生保護者は約2割が知っているが、利用しているのは1割未満だった。予防接種の予約や地域子育て支援事業のオンライン予約・受付機能があるとさらに使いやすいという意見があった。

- ・ 地域の子育て支援拠点事業は利用率が1～2割と低く、今後の利用希望もあまり高くない。一方で、すでに利用している方からの満足度は「満足」「まあまあ満足」合わせて約9割である。
- ・ 就学前児童の保護者は、小学校の放課後を学童クラブで過ごさせたいと考える割合が最も多い。小学生が実際に放課後過ごしている場所は、小学1年生は学童クラブが最も多いものの、学年が上がるにつれて、過ごしている割合が低くなっている。小学2年生以上は「下校後は、ずっと自宅」「運動に関する習い事（サッカークラブ、水泳教室など）」の割合が高くなっている。一方、小学生の保護者が希望している放課後に過ごす場所は、どの学年も学童クラブは1割未満で、習い事の割合が高かった。
- ・ 自宅で保育が受けられる訪問型の有料サービスについて、小学生保護者の希望から前回調査から2倍近く増え、就学前児童の保護者の希望と同程度になった。
- ・ 子どもとの生活で感じることにについて、就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに、「子育てにかかる経済的な負担を感じる」「子育てに不安になることがある」について「よく感じる」「ときどき感じる」の割合が高くなっている。
- ・ 虐待の理由として、就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに、「心に余裕がなくなってしまったから」が最も多かった。
- ・ 就学前児童の保護者・小学生の保護者ともに、理想的な子ども数を3名と回答した割合は4割弱だが、実際に持つつもりの子どもの数を3名と回答した割合は2割弱だった。理想と現実の差異の理由で最も多かったのは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」であり、その他、就学前児童の保護者は「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」や、小学生の保護者は「欲しいけれどもできないから」「高年齢で産むのはいやだから」だった。

3 計画専門部会での意見

- ・ 子育て支援アプリ「いこいこ」の認知率及び利用率が低い。電子母子健康手帳等と連動する等「いこいこ」の利便性が向上すれば、もっと使ってもらえるのではないかと。
- ・ 学童クラブについて、長期休暇時に利用できないという声もあった。放課後の預かりニーズに対してどのように応えていくかは重要な課題である。
- ・ ファミリー・サポート・センター事業の満足度が前回から下がっており、手続きに時間がかかる、利用したい時に利用できない、なかなかマッチングしない等の声が寄せられている。前回調査時よりサービスの品質が下がったというよりは、母親の就労率が上がる中で既存のサービスが現在の子育て支援ニーズと合わなくなってきたのではないかと。
- ・ 病児・病後児保育事業の満足度が前回から下がっており、空きがない、予約が取れない、遠い、高い、利用前の病院受診が負担等の声が寄せられている。施設や利用率が偏在している可能性があるため、確保施策を検討する際は個別に状況を確認した方がよい。
- ・ 危ない道が多い、道路が狭い、公園に日陰がない、ボール遊びができない等 公園や道路の整備に対する意見が自由記述で多くあがっていた。
- ・ 発達障害やグレーゾーンの子どもの支援や居場所に関する声も気になった。相談場所の周知とともに、発達障害やグレーゾーンに関する啓発も必要だと思う。
- ・ 多くの市民が自由回答に正直な思いを書いているので、市として重く受け止め、大切にしていこう必要があると思う。